

家庭教育支援チーム・サポーター養成講座① 実施レポート

日時：平成30年7月13日（金）10時～15時

会場：秋田県生涯学習センター 4階 第1研修室

参加者：57名（うち市町村等から47名）

先週行われた家庭教育支援チーム・リーダー養成講座に続いて、サポーター養成講座もスタートしました。初回は、「子どもや親と向かい合い、上手に話を聞く方法を学ぼう」というテーマで、特別支援教育の視点と傾聴のスキルについて演習を交えながら楽しく学びました。

【午前の部】

最初は、県立特別支援学校天王みどり学園の**島津憲司教育専門監**から、「子どもの発達と特別支援の理解」という演題で、講義とグループワークを御指導いただきました。島津氏は、「近年の特別支援教育の動向」「発達障害の子どもの困り感と支援」「子どもに伝わる言葉掛け」という3点を重点に講義されました。学校現場でみられる子どもの姿や多く寄せられている相談などをもとに発達障害の特徴を解説され、対応方法も紹介してくださいました。



実際に子どもに掛ける言葉を考える演習では、「**分かる言葉で簡潔かつ具体的に**」「**否定語ではなく肯定的な表現でシンプルに**」など、ポイント

＜島津氏の方しやすい講義で理解が深まりました＞

を押さえて会話を考えることができました。また、上手なほめ方について学ぶ場面では、“**60秒以内**にほめる” → “目標にしていることの**25%**が達成できたらほめる” → “一つの行為について保護者・周囲の大人が**3回**はほめる”という「**60・25・3のルール**」を強調されていました。

具体事例が豊富で分かりやすく、すぐに実践に結びつけられそうな内容に受講者は大満足でした。

【午後の部】



＜演習で澤村氏から直接傾聴スキルを指導していただきました！＞

午後からは、傾聴の啓発を進める団体である「アクティヴリッスン」の**澤村直樹代表**が、「聞き上手になるために～『傾聴』のスキルを学ぶ～」と題して演習を交えた講義を行いました。澤村氏は、日本傾聴ボランティア研究センターの理事長も務められており、全国で傾聴の考え方やスキルを広めている方です。

澤村氏は、はじめに傾聴の歴史や分類についてふれ、医療や福祉だけでなく経営・教育・日常生活など様々な領域の中で発展してきた概念であることを明らかにされました。そして、傾聴とは「**会話における思いやりの心**」であり、「**傾聴の対象者に“受けとめられている”と感じてもらうこと**

が重要である」との説明に、受講者は大きく頷いていました。その後、周囲でグループになり具体的な場面を想定して、相手に寄り添う会話の仕方について意見交換をしたり傾聴を体験したりしました。

演習の最後に行った「ほめ合い体験」では、相手に関心を寄せてもらうことの大切さやほめることの効果を実感することができました。会場には、自然と受講者の笑顔があふれ、ハッピーエンドな研修となりました。

【参加者の声】（抜粋）

- ・相手の良いところを探そうとする意識を持つよう心がけたいと思います。
- ・実例をたくさん示していただき、イメージを持ちながら話を聞くことができた。困り感を持っている子どもたちに対して、正しい知識と理解で支援・対応することの大切さを改めて実感することができた。
- ・温かな聴き手 ― 多様性を認めていく大切さを実感できた。反面、傾聴のむずかしさも体感した。
- ・さっそく明日から参考にさせていただきます。 ・わかりやすく、楽しく、とても参考になりました。